

授業改善プラン

地域名	南房総教育事務所	学校名	木更津市立畑沢小学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

○令和5年度「全国学力・学習状況調査」の国語科の記述形式の結果から、県や全国の正答率は届かなかったが、前年度の結果より差を縮めることができた。また、課題である記述形式の問題では、3問中2問が県や全国平均を上回り、自分の意見を書こうという意識は少しずつ高まってきている。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

○仮説を「国語科の学習を中心に書く活動を継続的に取り入れ、児童の意欲を高められるような学習の工夫をすれば、主体的に表現しようとするだろう」と設定し、全領域を通して自分の考えを表現できるよう図っていく。

3. 具体的な実践

○「全国学力・学習状況調査」を通じた授業改善

国語科の記述の問題を全職員で解き、児童の誤答の要因を質問調査と併せながら、2学期に向けた授業改善について話し合い、全職員で共有した。

○継続した「書く活動」（短作文）の実践

昨年度からのテーマ作文に、今年度は新聞を活用した短作文（低学年・高学年別）を合わせて取り組んだ。

○授業研究会（学年1展開・年2回）

相手意識や目的意識を明確にし、単元や授業の中に、条件的な記述を取り入れたり、書いたものを活用した交流を取り入れたりしながら、継続的な書く活動と児童の意欲を高めていく学習の工夫に向けた授業を展開した。

4. 成果

○令和6年度の「全国学力・学習状況調査」の国語科の記述形式の全ての問題で全国や県平均を大きく上回ることができた。また、児童生徒質問に「最後まで解こうと努力した」と回答した児童が9割近くいた。

○国語科の学習だけでなく、他教科の中でも自分の考えを書こうという姿が多く見られようになった。

○加配教員を高学年に配置したことで、児童のつまづきを把握し、全員が考えを表現できるよう支援できた。

◆担当指導主事から

○全教員で児童の課題を共通理解し、継続した取り組みにより大きな成果を上げることができた。加配教員の配置で、児童がどこまで理解できたかを教員が把握できるようになり、個に応じた指導を充実させることができた。